

18歳以上の外来通院者のリハビリテーション及び 在宅サービスの利用状況について

拓桃医療療育センター リハビリテーション技術部
○主任主査 工藤久江, 技術主査 岩間 真弓

Key words: 重度障害者、地域のリハビリテーションサービス、サービス利用のない人

I 目的

当センターに外来通院する18歳以上の方の地域でのリハビリテーションおよび在宅サービスの利用状況を把握すること。特に①障害の重い人を家族のみでサポートしていないか②地域でのリハビリテーション及び在宅サービス利用の地域差について③サービス利用のない人の状況について

II 方法

1 対象

平成25年9月～11月の期間に来院し、PT・OT・STを実施した18歳以上の112名

2 調査方法

外来通院時に対象者・家族等によるアンケート記入、リハ担当者による記入・聞き取り

3 調査期間

平成25年9月1日～11月30日

4 主な調査内容

①対象者および介護者について、②当センターの利用状況について、③当センター以外でリハビリテーションの実施状況について、④在宅サービスの利用状況について

5 調査に際しての倫理的留意

調査対象者に対し、口頭・文書で目的について説明を行い協力の同意を得た。調査データの取り扱いに際しては、対象者のプライバシー保護に留意し、データを一元的に管理した。

III 結果

- ① 対象者は平均25.1歳、中枢性疾患92%、障害者手帳1級66%、医療行為の必要な人23%。主たる介護者は母、50代64%。居住地は仙台市42%。
- ② 当センターにおけるリハの実施の84%がPT。通院時間は1時間以内65%。
- ③ 当センター以外のリハビリテーションの実施は、18%(20名)栗原を除く全圏域で利用。
- ④ 在宅サービス利用は、デイサービスおよび授産施設等へ通所が77%。サービス利用および所属なしは4名。

IV 考察

障害の重い人は、介助量も多く、家族の負担が大きいため居住地域に関わらず、すべての人が在宅サービスを利用。リハは、栗原を除く各圏域で実施されていたが、今後、本人・家族の加齢のため通院困難で地域でのリハが求められることが予測され、情報提供が必要。利用のない人のうち2名（自力移動が可能だが医療行為が必要）で、利用したいサービスがないとの回答。地元の相談機関へつなぐ事で人的支援や生活範囲の拡大が期待できる。